

＜対策のポイント＞

水産資源研究センター構想に向けた資源調査・評価体制の抜本的な強化の一環として、また、不漁対策のための資源変動メカニズム解明等のため、水産庁漁業調査船「開洋丸」を代船建造し、高精度かつ効率的に調査を実施します。

＜政策目標＞

水産資源の維持・回復及び漁業の成長産業化

＜事業の内容＞

○水産庁漁業調査船「開洋丸」を最新の水産資源・海洋調査が可能な調査船に代船建造します。

最新鋭の調査機器を搭載し、最先端の計量魚群探知機により魚類等の資源量推定や種判別、ナローマルチビーム測深装置により海底構造の把握等を高精度かつ効率的に行います。

＜事業の流れ＞

国（事業実施主体）

【水産庁漁業調査船としての役割】

- ① 精緻な資源調査を効率的に行い、資源管理目標の設定等に貢献
- ② 海洋環境等の調査により、不漁や漁期のずれの原因を究明
- ③ 国際漁業管理機関における主要な管理対象魚種の加入量等の把握等により、国際交渉における科学的議論を主導
- ④ 隣接する国等と共同管理すべき資源調査の充実により、資源管理を推進

＜事業イメージ＞



代船建造

- 調査能力の向上
⇒最新鋭の調査機器（最先端の計量魚探、ナローマルチビーム等）の導入
- 高いレベルの耐候性確保による、様々な海域での長期調査の実施・充実
⇒2,000トン超級の大型調査船
- 環境への配慮
⇒国際海事機関(IMO)が定めるNOx3次規制に対応するための脱硝装置の設置

